

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	鏡の間
Author(s)	児童の言語生態研究会,
Citation	児童の言語生態研究 , 10 : 58 - 58
Issue Date	1980-05-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045119
Right	
Relation	



鏡の間

今回は、本号音声言語教育の特集に因んで、児童作文における会話部分のすぐれたものを選んでみた。

長編童話『砂の城へ行ったメリーとハリス』
今泉……（一九七〇・玉川学園小学部四年生時の作品）より抜抄

メリー（姉）とハリス（弟）は庭の砂場で、スイスの風景を夢見ながら、砂で王様の城をつくっていたが、途中、二人は持ち場を離れることがあって戻ってみると、砂の城に變事が起きていた。ねずみの足あとより小さい足あとを見つけた。小人の案内で、二人はその城の中に入ることになる。最初に案内された宝石部屋で、マジックトッブルという宝石の盗難を発見する。大臣も、王子も、王女も、子猫や子犬までも集まって来た。

（以上は次の会話までのあらすじ）

小人「大臣様、私は、ただ今起きました、『マジックトッブル大事件』の犯人をさがしだす方法を見つけたのでございます。」

大臣「ほう、おまえの名は何と申したか？」
小人「モリック・スウォーガンと申します。」
大臣「モリック・スウォーガン、成功したらば礼を言うぞ。王様からも、どっさりほうびがいただけるであらう。」

小人「しかし、大臣様。それはまだまだ先のこと、犯人を見つけなければお話になりません。それに、礼を言われるのは、こないやしい私などでなく、キチンタサウソーを掘り出された、ミスター・ドモリックンクル・サパー氏に言われた方が良いと存じますか……」
大臣「そうであった。それでは、さっそく相談を始めよう。ところで、キチンタサウソーに關係があるようだが……」

小人「そうでございます。キチンタサウソーは、物を見つけ出す力を持っています。それを私は思い出したのです。しかし、キチンタサウソーは新しい宝石で、この宝石の使い方がくわしく出ている書物は、一冊もございません……」

大臣「それならわしに任せなさい。わしは、ドモリックンクル・サパー氏とは、幼稚園から大学院まで、全部同じクラスで、どの学科でも、ドモリックンクル・サパー氏とわしとは、常にライバルであった。また、特に仲が

良かった。わしの苦手な理科は、ドモリックンクル・サパー氏もわしと同じように苦手であった。だから、わしとおまえとで行けば、きつと教えてくれると思う。だから、心配はないな。」

小人「でも大臣様、私には、外の国からの大事な大事なお客様、メリー様とハリス様をご案内する、大事なつとめがございます。」
大臣「何、そんなことならわけはない。メリーさんとハリス君もいっしょに連れて行けばよい。ドモリックンクル・サパー氏は、すぐ子供がお好きだ。だから、いっしょに連れて行ってもかまわないと思うがな、モリック・スウォーガン。」

小人「そうですね。どうもありがとうございます。あの大変失礼でございますが、ドモリックンクル・サパー氏は、どこにお住まいでしょうか？」

大臣「ああ、そうであった。モリック・スウォーガン、すまんが、わしの家へ一つ走り行ってきて、家内は、大学院の時の住所録ももらってきておくれ。」

小人「はい、承知しました。」